

古賀っ子学力向上プラン

【学校教育目標】 自ら考え主体的に判断し行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成
～同じ方向に向かってみんなで徹底実践しようとする古賀っ子の育成～

【目指す子ども像】 <やる木>課題解決意識をもって学び合う子ども <げん木>元気にあいさつをし、しっかりと反応する子ども <こん木>目標に向かって成し遂げようとする子ども

【研究主題】 できた！わかった！の創造 ～算数科における「伝え合う力」の向上を目指した話し合い活動の工夫と環境づくり～

【基礎基本の向上】 ○学習内容を定着する場が設定された算数授業 ○語彙の獲得(読書活動の充実) ○習熟度別学習を取り入れる。 ○個に応じた指導(個別指導の徹底)	【思考力・判断力・表現力の向上】 ○各教科における言語活動の充実 ○主体的で対話的な活動の充実 ○ペア学習、グループ活動等、協同的な学びを取り入れる ○スキルタイムの充実(対話の練習など)	【家庭学習の充実】 ○「家庭学習の手引き」の活用とその定着(学年×10＋10分) ○自主学習の奨励(家庭学習の手引きの作成) ○クロームブックの積極的活用(キュビナによる自主学習など)	【学びの環境づくり】 ○「ユニバーサルデザインチェックリスト」の活用 ○電子黒板等、ICT機器の活用 ○特別支援教育、支援体制の充実	【授業力・指導力向上のための研修】 ○校内研究の充実(算数科における1人1本授業の実践) ○外部の研究発表会、各種研修会への積極的な参加と伝達 ○情報教育担当教員によるICT機器の活用に関する研修
--	--	---	---	---

		学年の課題	今後の目標(子どもの姿)	達成のための具体策	検証方法
1年生	国語	・言葉のまとまりで読めない子、書かれている文を1字ずつ確実に読めない子が少なくない。 ・ひらがなの確実な定着ができていない子が多い。 ・自分の考えを文で書くことが苦手な子が多い。	・ひらがなや、かたかな、漢字を正しく読んだり書いたりすることができる。 ・順序を考えたり、場面の様子や登場人物の行動を読み取ったりしながら内容の大体を捉えることができる。 ・自分の思いや考えを内容のまとまりが分かるように書き表したり、伝えたりすることができる。	・音読を学習の中に位置づけ、文字を読むことへの抵抗をなくすとともに、目で文字を追いながら読むことができるようにする。 ・内容や感想、分かったことなどを伝え合う活動を取り入れ、主体的に内容を読み取ることができるようにする。 ・モデルとなる文を提示したり、身近なことや思ったことなどを書き表したりすることで、書くことを日常化していく。	○授業での姿・成果物 ○単元テスト
	算数	・問題文を読み解いて、式に表すことが苦手。 ・図と式をセットにして考えることが苦手。 ・問題を読み、図で表すこと。	・基本的な加法・減法を確実に身につける。 ・図やブロックなど、具体物を使って説明を行うことができる。 ・きまった言葉から、式を考えることができる。	・授業だけではなく、家庭学習やスキルタイムで日常的に問題に取り組ませる。 ・算数の授業中、全ての児童が自分なりの説明をする機会が与えられるよう、ペアやグループで伝え合う活動設ける。 ・問題文の中のキーワード(下線を引く・教室掲示にある言葉)から式を考えさせることで、問題文を読むときにはキーワードを探す習慣を身に付けさせる。	○授業での姿・成果物 ○単元テスト
2年生	国語	・文章をじっくり丁寧に読もうとしないため、読み取りに差がある。 ・漢字を正しく読んだり書いたり、文章の中で使おうとしたりすること。 ・書くことに意欲の差がある。	・文章の中で重要な語や文を選び出し、内容を捉えることができる。 ・内容のまとまりが分かるように言葉を選んで、書き表し方を工夫することができる。 ・漢字を正しく読んだり、書いたりすることができる。	・読書タイムのみならず、隙間時間には読書を推奨することによって、文字を読むことへの抵抗感を減らすようにしていく。 ・教科書巻末の「ことばのたからばこ」を活用することによって、意識的に語彙を増やしながら、書く楽しみを実感させるようにする。 ・毎日の漢字練習の徹底に加え、小テストと50問テストで達成感を味わわせながら取り組めるようにする。	○授業での成果物 ○単元テスト ○漢字50問テスト
	算数	・題意を正しく読み取ることができない。読み取る力に差がある。 ・学んだことを自ら生かそうとせず、解く方法を教えてもらうことを待っている。 ・計算力に差がある。(既習内容の理解の度合いが違いすぎる。)	・題意をじっくり読み取り、解決方法を考え、答えを導くことができる。 ・3位数までの加法・減法の仕方を理解し、正しく行うことができる。 ・自分なりの考えをもち、友達に伝えたり、聞いたりすることができる。	・式の立て方のポイントや図を使って考える方法を教えることによって、基礎的な力を確実にするよう指導する。 ・既習内容の加法・減法を計算カードやキュビナを活用して、習得の差を埋めていくようにする。 ・「話す」「聞く」の指導の徹底から、さらに「反応する」ことへつなげられるように、話型を取り入れながら指導する。	○授業での成果物 ○単元テスト
3年生	国語	・読み取りに課題がある。深く考えようとせず、意欲的に取り組まないことがある。 ・漢字の習得率に課題がある。 ・書くことに二極化が見られる。手が付かない児童は、まったく意欲を見せない。	・考えとそれを支える理由や事例との関係や、登場人物の気持ちの変化について叙述を基に捉えることができる。 ・3年生までの漢字を大体読んだり、半分以上書いたりすることができる。 ・経験したことや想像したことから書くことを選び、進んで伝えようとすることができる。	・デジタル教科書などを活用して、文章の内容を視覚的に捉えられるように配慮する。 ・漢字の小テストや単元テストを計画的に行い、主体的な取組を促す。 ・文章の内容や形式の例示を工夫するとともに、相互参照や相互評価の機会を適宜設ける。	○授業での成果物 ○単元テスト ○漢字50問テスト
	算数	・「倍の見方」が十分理解できていない。念頭による思考が十分働いていないと見られる。 ・適切な単位を使うことに課題がある。3年生の学習内容である単位換算(長さ)も弱い。 ・計算の処理速度が遅い児童がいるとともに、既習内容を生かして素早く解決することに課題。	・四則演算を、速く正確に行うとともに、問題に粘り強く取り組むことができる。 ・文章題の題意を正しく捉え、適切に立式し、答えまでたどり着くことができる。 ・長さや重さ、時間などの単位への理解を確かにし、進んで問題に取り組むことができる。	・デジタル教科書などを活用して、問題の内容を視覚的に捉えられるように配慮する。 ・プリントやドリル、Qubenaなどを活用して、学習した内容の習熟を図る機会を十分設ける。 ・学習した内容を書かせて伝え合わせることで、内容の理解を深められるようにする。	○授業での成果物 ○単元テスト
4年生	国語	・漢字を正しく読んだり書いたり、文章の中で使ったりすること。 ・接続語を使い、主語と述語の関連も考えながら分かりやすい文章を書くこと。	・漢字を正しく読んだり書いたり、文章の中で使ったりすることができる。 ・接続語を使い、主語と述語の関連も考えながら分かりやすい文章を書くことができる。	・漢字の習得のために、定期的な小テストの実施をしたり50問テストに向けて目標点数を決めさせたりして、漢字の練習をやらなければいけない状況を作る。 ・作文指導の際に、文を○個以上にする、「だから」「しかし」などのつなぎ言葉を使うという条件を付与することで、分かりやすい文章を書く力をつける	○授業での成果物 ○単元テスト ○漢字50問テスト

		・分からない問題にも根気よく取り組み、教師や友達に尋ねながらも最後まで取り組む。	・分からない問題にも根気よく取り組み、教師や友達に尋ねながらも最後まで取り組むことができる。	・机間指導では小さなことでも子どもたちを褒めるようにし、話し合いの場でも互いの意見を認め合うことで、学習に対する意欲を高めるようにする。	
	算数	・四則計算の概算をし、正しい答えを導くこと。 ・数(大きい数、小数、分数)の仕組みや概念を正しく理解すること。 ・分からない問題にも根気よく取り組み、教師や友達に尋ねながらも最後まで取り組む。	・四則計算の概算をし、正しい答えを導くことができる。 ・数(大きい数、小数、分数)の仕組みや概念を正しく理解することができる。 ・分からない問題にも根気よく取り組み、教師や友達に尋ねながらも最後まで取り組むことができる。	・授業の中で計算をする際に「だいたいどれぐらいの答えになりそう?」と投げかけ、何の位までの答えになりそうかを考えるくせをつけさせる。 ・既習事項を振り返って学習の基盤をしっかりと作ることで、新しい学習でも理解がしやすいようにする。 ・机間指導では小さなことでも子どもたちを褒めるようにし、話し合いの場でも互いの意見を認め合うことで、学習に対する意欲を高めるようにする。	○授業での姿 ○単元テスト
5年生	国語	○文章を読んで内容を正しく理解し、要約すること。 ○自分の考えを分かりやすくまとめたり、話したりすること。 ○漢字を正しく読んだり、書いたり、文章の中で使ったりすること。	○読む目的を意識して文章を進んで読み、内容を正しく理解して要約をすることができる。 ○自分の考えを理由や具体例を挙げながら分かりやすくまとめたり、話したりすることができる。 ○漢字を正しく読んだり、書いたり、文章の中で使ったりすることができる。	○文章を読む際に、語や文に線を引いたり、丸で囲んだりさせ、必要な情報を視覚的に捉えさせる。また、要約したものを他者と交流させ、再検討する時間を設定し、学びを深める。 ○自分の考えをまとめる際に、モデルとなる文章やワークシートを示し、理由や事例を挙げる表現や文頭・文末表現など、書き表し方の工夫を繰り返し指導する。 ○新出漢字や前学年の漢字の習得に向けて、練習方法を工夫させたり、キュビナの活用で授業中の復習や家庭学習に取り組ませたりする。	○授業での成果物や単元末テスト ○学力調査の過去問題(ゆめあこ) ○学期末の漢字テスト(50問)
	算数	○答えの求め方を分かりやすく書いたり、話したりすること。 ○問題の数量関係を正しく捉え、問題の解決方法を考えること。 ○四則演算を正しく行ったり、素早く行ったりすること。	○答えの求め方を、他者が分かるように順序よく書いたり、話したりすることができる。 ○問題の数量関係を正しく捉えたり、問題の解決方法を考え、答えにたどり着くことができる。 ○四則演算を正しく、素早く行い、問題を確実に解決できる。	○説明をまとめる際に、モデルとなる文章やワークシートを示し、「まず」「次に」「最後に」のような表現を用いて順序よく説明する方法を繰り返し指導する。また、対話的な活動の中で、繰り返し説明の練習をさせる。 ○問題文の必要な数や言葉に印をつけさせたり、数直線に書き表させたりすることで、問題の数量関係を捉えることができるようにする。 ○四則演算の基礎を強化するためにキュビナを活用し、学年をさかのぼって復習や家庭学習に取り組ませる。	○授業での姿や単元末テスト ○学力調査の過去問題(ゆめあこ) ○学年末の計算復習テスト(5年の学習内容で)
6年生	国語	○自分の考えを書いたり、相手に伝えたりすること。 ○資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ○登場人物の相互関係や心情について、描写をもとに捉えること。 * 全て県学力調査の結果と授業の姿から	○自分の考えを理由や具体例を挙げながら分かりやすくまとめたり、話したりすることができる。 ○資料を効果的に用いながら、説得力のある考えを相手に伝えることができる。 ○登場人物の相互関係や心情について、描写をもとに捉えることができる。	○自分の考えをまとめる際に、モデルとなる文章やワークシートを示し、理由や事例を挙げる表現や文頭・文末表現など、書き表し方の工夫を繰り返し指導する。 ○説明文において、資料があることで筆者のどの考えを説得力のあるものにしていくのか考えさせたり、実際に自分の考えを資料を用いながら説明する練習をする。 ○読書タイムの充実と、普段の授業で登場人物の心情を考える根拠となる箇所に関線を引かせる訓練をする。	○授業での成果物 ○単元末テスト
	算数	○四則演算ができる子とできない子の差をなくすこと。 ○問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。 ○既習の公式を正しく覚えていないから、上手く使えていないこと。 * 全て学力調査の結果と授業の姿から	○基本的な四則演算を全員が正しく行うことができる。 ○問題を正確に読み取り、数量の関係を捉え、式に表すことができる。 ○既習の公式を正確に覚え、問題場面においてどの公式が使えるかを考え、上手く使うことができる。	○四則演算の基礎を強化するためにキュビナを活用し、学年をさかのぼって復習や家庭学習に取り組ませる。 ○問題文の必要な数や言葉に印をつけさせたり、数直線に書き表させたりすることで、問題の数量関係を捉えることができるようにする。 ○キュビナや授業の中で、学年をさかのぼって復習を行う。	○単元末の児童の姿 ○単元末テスト